

第2章 沿革と概要

2.1 熊取町の概要

2.1.1 位置・地形・交通網・気候

本町は、大阪都心部から約 30k mの距離にあり、東部を貝塚市、西部を泉佐野市に隣接し、大阪府の南部に位置しており、東西 4.8k m、南北 7.8k mの木の葉状の町であり、山間部を除き概ね平坦です。

南方には、和泉山脈の一部である雨山（海拔 312m）があり風光明媚で和泉平野及び大阪湾を隔て淡路島が遠望できます。東方は和泉山脈の山麓地域で、地盤は東南より北西に向かって次第に低く適度に傾斜を保って海岸平野に接しています。

和泉山脈に源を発する見出川、雨山川、住吉川は町の中央部を流れ大阪湾に注いでいます。土質は肥沃で山間部は松を主とする造林に、平野は耕地に適しています。

また、交通面では JR 阪和線が町の西端を通っており、主要国道は国道 170 号（大阪外環状線）、府道泉佐野打田線、府道泉佐野熊取線があり他市との交通はこれらの道路に依存しています。

気候は、瀬戸内海気候区の東の端に位置し、比較的雨量の少ない部に属します。アメダスによる各平年値の平均気温は 15.6 度（昭和 52 年～平成 30 年の平均）、年間降水量は 1,301.1mm（昭和 51 年～平成 30 年の平均）で温暖、寡雨（かう）の気候です。風向きは、年間を通じて西風が吹くことが圧倒的に多く、特に冬は顕著です。

2.1.2 人口・社会的条件

昭和 40 年代後半からの大規模な宅地開発を契機として、昭和 50 年 10 月 1 日現在で 18,032 人であった人口は、昭和 55 年 10 月 1 日現在 25,432 人、昭和 60 年 10 月 1 日現在 33,542 人と、大阪府内でも有数の人口急増都市となり、令和 2 年 3 月末現在 43,589 人と人口動態は微減傾向へと推移してきています。

世帯構成は、核家族世帯がかなりを占め、単独世帯についても増加傾向にあり、世帯の小規模化が進んでいます。

2.2 下水道事業の沿革

本町下水道事業は、昭和 62 年度に全体計画を策定し、昭和 63 年 10 月に下水道法事業計画認可を取得した後、平成元年度より公共下水道工事に着手しました。

また、経営面においては、平成 30 年 4 月 1 日より地方公営企業法の全部を適用しています。

表 2.2.1 (1) 下水道事業の沿革

年 月	下水道事業の沿革	主な出来事
昭和 63年 2月	<p>全体計画作成 名称：熊取町南大阪湾岸中部流域関連公共下水道基本計画 排除方式：分流式 計画区域：1,315ha 計画人口：54,000人 (市街化区域51,000人・市街化調整区域3,000人)</p>	瀬戸大橋開通、ソウル五輪
3月	<p>公共下水道都市計画決定 計画区域：815ha 計画人口：45,700人</p>	
10月	<p>下水道法事業計画当初 計画区域：81ha (汚水) 計画人口：4,510人 (汚水)</p>	
平成 元年 4月	<p>事業部に下水道課を発足</p>	消費税導入 (3%)、ベルリンの壁崩壊
9月	<p>公共下水道工事着手 (大久保地区)</p>	
3年 4月	<p>下水道法事業計画第1回変更 計画区域：286ha (汚水) 計画人口：16,000人 (汚水)</p>	湾岸戦争、ソビエト連邦消滅
11月	<p>公共下水道供用開始 (大久保地区) 町制施行40周年・公共下水道供用開始合同記念式典挙行</p>	
4年 6月	<p>公共下水道工事着手 (七山地区)</p>	アルベールビル五輪 (冬季) バルセロナ五輪
11月	<p>池の台、グリーンヒル地区を公共下水道へ接続替</p>	
5年 2月	<p>公共下水道都市計画変更 (第1回) 流域下水道熊取泉佐野幹線Ⅱの延伸に伴う幹線管渠の変更</p>	
6月	<p>下水道法事業計画第2回変更 計画区域：286ha (汚水) 計画人口：16,000人 (汚水)</p>	東京サミット、北海道南西沖地震
10月	<p>希望が丘、自由が丘、若葉地区を公共下水道へ接続替 町立北小学校、町立熊取北中学校公共下水道使用開始</p>	
7年 3月	<p>公共下水道都市計画変更 (第2回) 計画区域：850ha 計画人口：47,300人</p>	阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件
8年 3月	<p>下水道事業計画第3回変更 計画区域：398ha (汚水) 計画人口：22,300人 (汚水)</p>	病原性大腸菌O-157食中毒 アトランタ五輪
4月	<p>機構改革により都市整備部下水道課に変更</p>	
8月	<p>町立総合体育館 (ひまわりドーム) 公共下水道使用開始</p>	
9年 4月	<p>消費税改定 (3%→5%) 熊取町役場公共下水道使用開始</p>	香港、中国へ返還
10月	<p>町立中央小学校公共下水道使用開始</p>	
11年 3月	<p>下水道法事業計画第4回変更 計画区域：614ha (汚水) 計画人口：34,400人 (汚水)</p>	国内初の臨界事故
8月	<p>町立総合福祉センター (ふれあいセンター) 公共下水道使用開始</p>	
12年 3月	<p>山の手台地区を公共下水道へ接続替</p>	有珠山・三宅島噴火、シドニー五輪
4月	<p>機構改革により事業部下水道課に変更</p>	
11月	<p>公共下水道都市計画変更 (第3回) 計画区域：925ha 計画人口：51,000人</p>	
13年 8月	<p>町立熊取中学校公共下水道使用開始</p>	省庁再編、アメリカ同時多発テロ事件

表 2.2.1 (2) 下水道事業の沿革

年 月	下水道事業の沿革	主な出来事
平成 14年 4月	機構改革により都市整備部下水道課に変更 新桜が丘地区を公共下水道へ接続替	ソルトレイクシティ五輪(冬季) サッカーW杯日韓大会
15年 3月	南山の手台地区を公共下水道へ接続替	日本郵政公社発足
16年 3月	全体計画第1回変更 計画区域: 1,328ha 計画人口: 51,000人 (市街化区域50,000人・市街化調整区域1,000人) 下水道法事業計画第5回変更 計画区域: 614ha(汚水) 計画人口: 33,220人(汚水)	アテネ五輪
12月	公共下水道都市計画変更(第4回) 南部大阪都市計画に名称変更	
17年 1月	下水道使用料改定(第1回) 改定率 一律22.7%	日本国際博覧会(愛知万博)
9月	町立西小学校公共下水道使用開始	
18年 3月	下水道法事業計画第6回変更 計画区域: 703ha(汚水) 計画人口: 35,613人(汚水)	トリノ五輪(冬季)、ライブドア事件
20年 4月	機構改革により事業部下水道課に変更	米国リーマン・ブラザーズ経営破綻 北京五輪
11月	熊取町公共下水道事業再評価を実施	
21年 1月	下水道使用料改定(第2回) 改定率 一律22.8%	裁判員制度始まる
4月	機構改革により上下水道部下水道課に変更	
23年 4月	美熊台・長池・公社熊取地区を公共下水道へ接続替	東日本大震災
24年 1月	下水道使用料改定(第3回) 改定率 平均14.6%	東京スカイツリー開業、ロンドン五輪
25年 3月	全体計画第2回変更 計画区域: 1,328ha 計画人口: 47,000人 (市街化区域46,532人・市街化調整区域468人) 下水道法事業計画第7回変更 計画区域: 703ha(汚水) 計画人口: 35,390人(汚水) 長寿命化計画策定(大久保地区・管更正、人孔更正等)	富士山世界文化遺産登録
26年 4月	消費税改定(5%→8%)	あへのハルカス開業 ソチ五輪(冬季) 北陸新幹線開業
27年 2月	長寿命化計画策定(人孔鉄蓋、マンホールポンプ施設)	
28年 4月	下水道事業業務継続計画(下水道BCP)策定	マイナンバー制度運用開始 リオデジャネイロ五輪
12月	「災害時における応急対策業務の協力に関する協定」締結 3社と公共下水道施設の応急復旧に関する協定締結	
30年 3月	下水道法事業計画第8回変更 計画区域: 843ha(汚水) 計画人口: 42,418人(汚水)	平昌五輪(冬季)
4月	下水道事業に地方公営企業法を適用	
8月	マンホールカード配布開始	
10月	消費税改定(8%→10%)	
12月	「災害時における応急対策業務の協力に関する協定」締結 1社とマンホールポンプの応急復旧に関する協定締結	
令和 3年 3月	熊取町下水道ビジョン(経営戦略)策定	

2.3 下水道事業の概要

本町の下水道事業は、南大阪湾岸中部流域関連公共下水道に位置づけ、雨水と汚水を別々に処理する分流式を採用しており、ご家庭や事業所から排出される汚水雑排水については、公共下水道管及び流域下水道管を經由し、中部水みらいセンター（貝塚市二色南町）において処理された後、大阪湾に放流されています。

中部水みらいセンターでは、本町を含め、岸和田市の一部、貝塚市、泉佐野市、田尻町及び泉南市の一部の汚水を共同処理しています。

また、雨水については、水路や道路側溝、雨水管を經由し、河川に流出されています。

表 2.3.1 下水道事業の概要（令和元年度末）

事業開始年度	昭和62年度
供用開始年月日	平成3年11月1日
流域下水道接続	南大阪湾岸中部流域下水道
終末処理場	中部水みらいセンター（貝塚市二色南町）
地方公営企業法の適用	全部適用（平成30年4月1日）
全体計画人口	47,000 人
下水道法事業計画人口	42,418 人
全体計画面積	1,328.18 ha
市街化区域面積	924.67 ha
事業計画面積（汚水）	842.93 ha

	人 口	世 帯
行政区域内	43,589 人	18,174 世帯
整備済区域内	35,569 人	14,867 世帯
水洗化	33,673 人	13,934 世帯
下水道普及率	81.6 %	—
水洗化率	94.7 %	—
年間有収水量	3,407,761 m ³	
下水道管延長	209,094 m (汚水151,890m 雨水57,204m)	
汚水整備済面積	607.3 ha	

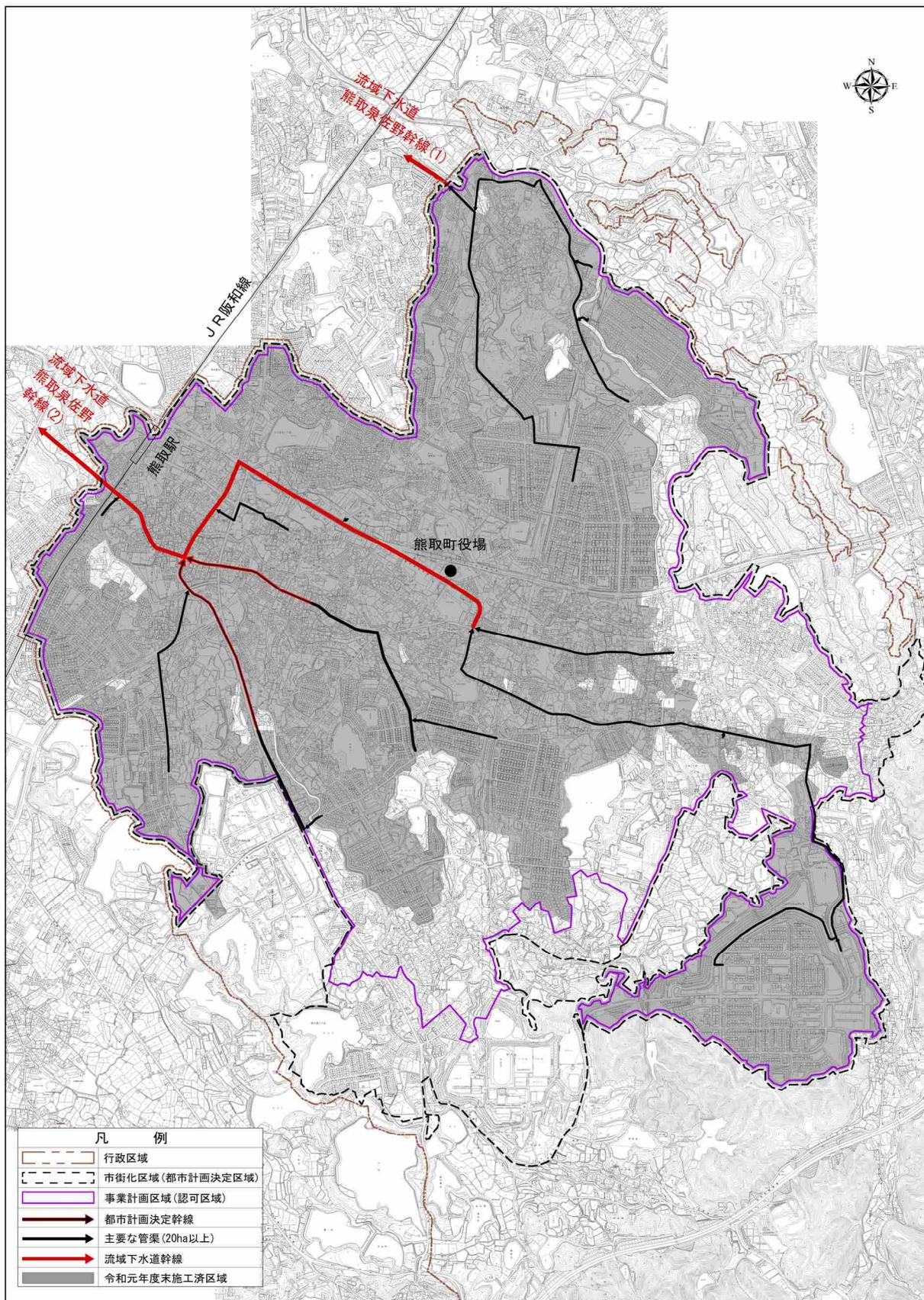


図 2.3.1 下水道事業概要図(令和元年度末)

2.4 南大阪湾岸流域下水道中部処理区 中部水みらいセンター

南大阪湾岸流域下水道中部処理区は、大阪湾に流入する近木川、見出川及び佐野川の流域を処理区としています。

処理区内で発生した汚水は、中部水みらいセンターで処理されます。

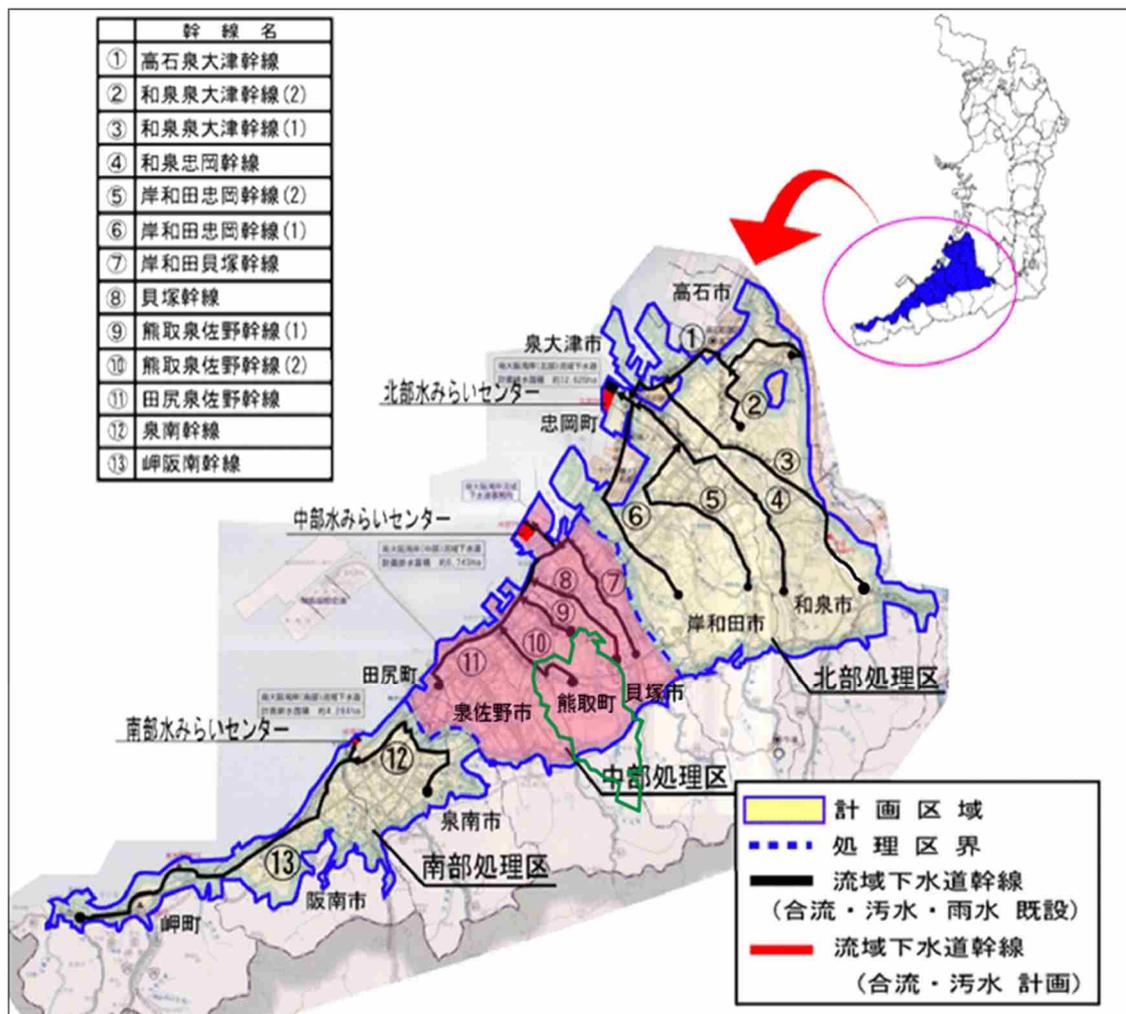


図 2.4.1 南大阪湾岸流域下水道中部処理区の位置図

表 2.4.1 南大阪湾岸流域下水道（中部水みらいセンター）の概要

流域下水道		南大阪湾岸流域下水道	
		全体計画	H30年度末
区域面積(ha)		6,744	2,599
処理人口(人)		247,210	135,941
水みらい センター	処理能力(m ³ /日)	149,800	70,200
	敷地面積(ha)	30	
	供用開始	平成元年4月1日	
関係市町		岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、 熊取町、田尻町(計4市、2町)	

※「平成30年度末大阪府下水道統計 R2. 3 大阪府都市整備部下水道室」より



中部水みらいセンター